



<水生生物調査>



Contents

ホームページでは、**カラー**で見ることができます
URL <http://www.naranature.com>



ならやまに若人集う（近畿大学野外実習）レポ	1.2	私の少年時代	10
ならやまプロジェクト	3	述懐	11
Monthly Repo ならやま	4	スズメバチ考	12
里山の今（エコ・景観）	5	夏の思い出	13
里山の今（虫だより・花だより）	6	Galleryならやま	14
春の感謝祭・レポ	7	幹事会報告・編集後記	15
育英グローバル小学校校庭学習・レポ	8		
仲間入りしました	9		

ならやまに若人集う

近畿大学の野外実習・レポ

田中 善英

7月14日(金曜日)、近畿大学農学部水圏生態学研究室の野外実習が行われた。

ならやまでのペタキンの育種でお世話になっている北川先生と教員1名、修士1名、研究室の3回生15名、総勢18名。当会は千載会長、富井副会長、太田副会長、ビオ担当の計5名が加わり、大人数での実習となりました。



14時、ベースキャンプに集まり、北川先生から野外実習の内容説明。まず、里山に入って、ならやまの自然環境を観察し、次にビオエリアで西池に育種の為の木枠を設置。また、ビオエリアの環境の調査実習をすることになった。

里山実習開始。迷子にならないよう、観察路の地図を配布。千載会長からならやまの概要を説明して、ヘルメットを被って出発。ツツジの道から里山に入った。



見晴らしの辻にて

千載会長の先導、説明で山道を歩き、見晴ら

しの辻まではハイキング気分で楽しく歩けた。

でも、それからが大変。オオタカの辻から実りの森へ通じる坂道で倒木があり、あちこちに頭をぶつけながら何とか迂回したものの、改めてヘルメットの大切さを実感。それから、自転車道を通り、再度、学びの森から遊びの森を経由してベースキャンプに到着。里山実習に加えてアスレチックのおまけ付きでした。

次にビオエリアに移動して、北川先生、中西さんの指示で作業開始。さすが、水圏生態学研究室の方々。ウェザーを着て、タナゴ池、ドジョウ池、西池でテキパキと作業スタート。当会のメンバーは感心して見てるだけでした。



ドジョウ池・生物調査

タナゴ池、ドジョウ池では網を使って生物の調査をされたとの事でした。

西池では1.4mの四角い木枠を2つ作って、池の中に設置。木枠の中を掘り下げて水深を深くして田貝の試験育種用の環境を作り、環境が落ち着いたなら、田貝の試験育種を開始するとの事でした。



ドジョウ池・生物調査

17時、総ての作業が予定通り終了。北川先生から楽しい実習でしたとお話があり、解散となりました。参加した学生さんからいただいた感想を紹介します。

<参加した学生の皆さんの感想(一部)>

私は普段都会寄りの場所に住んでいて、あの場所のような



ザ・里地里山のような場所に初めて行ったので、すごく見応えがあり、綺麗な場所だなと感じました。

あの場所は本当に自然に富んでおり、大学の授業の一環だけでなく、小中高生の環境教育の場としても大変優れていると感じました。私の中高等学校は大阪にあったのですが、そこからもあの場所には行く価値があると思うので、色々な人達にあの場所を知ってもらい、里地里山の良さをもっと広められるように、大学側との協力でたくさんのイベントができれば良いなと考えました。

普段山に入って活動するという経験がほとんどないので多くの目に付くものが新鮮で面白かった。見かけない大きさや色のさまざまな種類のキノコが生えており興味深かった。カブトムシやクワガタムシを小学生の時以来見る機会がなく今回の見学で見ることができ懐かしい気持ちになった。池での作業の際普段見ることのないドジョウなどのさまざまな生き物があり面白かった。



詳しい解説をしてくださりながら山の中を歩くことや、ビオトープの整備ができて、非常に楽しかったです。実際にならやま里山林を見てみて、人の手が入りつつ元々の自然が残っていて、里山管理のお手本のようだと感じました。

管理だけでなく、ブルーベリー栽培などの取り組みも行っていてとても良い活動だと思いました。また、毎週決められた日に100人くらい集まって活動していることにとても驚きました。自分も将来このような活動がしたいと思います。

自分たちの力で切り開かれた里山をみて手入れされている里山と放置された森の違いをはっきり見ることができた。やはり、手入れされた里山は明るく植物も多様であり過ごしやすい空間となっていた。明るい森が増え、イベントが行われることで、子どもたちやその親世代など多くの世代が森林を学び興味を持つことができると感じた。また、それぞれが興味のある分野で役割をもって新しいことを展開し続けておられる所に新しい趣味として森林に手軽に関わる人が増え、管理される里山が増えれば良いなと感じた。

手入れされていなかった山を地域住民と協力して里山化して、さらに積極的にニッポンバラタナゴの生育に取り組む等まさに里山活動としてもっとも模範的で素晴らしい活動をされていることにとても感動しました。我々近大農学部環境管理学科もさらに学び、より良い環境、自然との関係を模索し成長せねばという意識を抱きました。

<会報誌の締め切りも過ぎており、参加した学生さんすべての感想文を掲載することはできませんが、ならやまが若い人たち



にとっても素晴らしいところだと思っていたことが嬉しくて、どうしても伝えたくて、一部の方のみの感想を紹介しました。今後もこうした交流を通じて、若い人たちに私たちの活動の魅力を伝えていければと思います。>

ならやまプロジェクト

**明るく・楽しく・無理をせず
あなたも私も・力合わせて**

嵐の季節がようやく一段落した。日本列島どこも大荒れのお天気に見舞われ、ならやまでも強風のためにイベント予定の緑陰広場にクヌギの大木が倒れ、ベースキャンプにも竹林からたくさんの竹がはみ出た。でもならやまの様子が気になる有志はいち早く状況を察知、臨時活動が手配され、また活動日の早朝には多くの有志によって倒木も整理されていた。一人ひとりの力は小さくても、ならやまへの思いのもとで協力することで発揮されるパワーはこの会の誇りだ。おかげで、きれいに整備されたならやまで、久しぶりの飯盒炊爨を含むイベントに参加した多くの家族を安心して迎えることができた。

また、6月には奈良県の「きれいに暮らす奈良県スタイルジャーナル」で広報され、7月には奈良テレビでも紹介いただいたが、こうした評価に恥じない活動に努めなければと改めて思う。

8月は特段のイベントもなく、夏休みも予定しており、できるだけ無理のない心身共に休まるような活動に心がけたい。

8月の活動特記事項 夏時間(9:00~12:30):7月6日から当分の間

8月3日(木):協働活動(アダプトプログラム・水田除草)

8月10日(木):夏休みにて活動休止(ただし、野菜の収穫・販売は実施予定)

8月の各グループ活動予定

グループ	活動予定
里山	里山林内整備(No.23,24付近)、薪割り、間伐丸太材加工 ユート:アカマツの森でのマツの間伐・草刈り
エコファーム	水田の除草、各種野菜の畑作り エンドウ跡地整備(除草と堆肥入れ) ナス、カボチャ、落花生、さつまいもの手入れ 鹿対策ネットの整備(常盤)
景観	整備:ベースキャンプ周辺・彩の森草刈り、ミツバチ巣箱整備、テント補修 ビオ:池・水路の環境保全・整備 花:アジサイ剪定、山野草園、道路周辺の花壇草引き
パトロール	1~3コースパトロール、観察路整備、笹草刈り ベースキャンプ屋根テント補修
果樹	鹿よけフェンスの設置、果樹の軽剪定、お礼肥の施肥 実りの森の除草

活動日: 毎週木曜日 9:00~12:30(夏時間:7月から当分の間)

前日の19時現在の気象庁予報(NHKTV 奈良 19時前放送)の天気予報で、奈良県北部の午前中の降雨確率60%以上の場合は翌日、翌日も同予報であれば中止



Monthly Repo. **ならやま**

富井 忠雄

6月22日(木) 雨の為中止 5名

ビオ班と近大生4名が水生生物の定期調査

6月23日(金) 曇り、56名(春の感謝祭)



昨日の雨の為、23日に順延しての感謝祭。ならやまの野菜などを使った

た心づくしのカレー・野菜サラダが提供された。

里山Gは彩の森にベンチを設置。学びの森のコナラ伐倒、枝処理。エコGは感謝祭のカレー用にジャガイモなどを準備、シシトウなど定植。景観Gは里山Gと協力して彩の森にベンチを設置、真竹林の伐採整理。花班は山野草園の草引き。ビオ班は北水田の東側水路の草刈り。パトGは花壇の柵作り、観察路3コースのパトロール、育英グローバル小学校の自然観察学習支援の下見。果樹Gは梅の実の収穫、鹿除けフェンスの設置。

6月29日(木) 晴れ 77名

里山Gは彩の森の枯死木の伐採と処理、薪割り。エコGはカボチャ、サツマイモなどの除草と藁敷き、キャベツなどの収穫。景観Gは彩の森、展望台の斜面の草刈り。花班はBC周辺の草引き。ビオ班はザリガニの駆除、草刈り。パトGは観察路3コースのパトロール、観察路草刈り、北壁の観察会。果樹Gはブルーベリーの収穫、鹿除けフェンスの設置。

7月6日(木) 晴れ 78名

奈良市アダプトプログラムの一環でもあるならやま周辺の清掃を行う。

里山Gは次回イベントに向け遊びの森の枯木処理、観察路整備。エコGはレタスなどの収

穫、サツマイモ畑の除草と移植。景観Gは彩の森、四季の丘周辺の草刈り。花班は山野草園の草取り。ビオ班は水生生物調査とザリガニ駆除。パトロールGは観察路草刈り。果樹Gはブルーベリー、フキの収穫、除草など。

7月12日(水) 臨時活動 11名

10日の突風雷雨によりBC周辺の木、竹が倒れ、景観G中心に11名が片付けを行う。

7月13日(木) 曇り 60名+4名+2名

50%の予想で参加者が少ない。奈良TVから収録取材(7月20日「ゆうどき」にて放送)に4名、シニア自然大学校から担当理事交代の挨拶に2名来訪。

イベントに向けて飯盒炊爨の準備を行う。

里山Gはコナラの処理、遊びの森の準備など。エコGは畑の除草とピーマンなどの収穫。景観Gは緑陰広場、真竹林の整備。花班はアジサイの剪定。ビオ班は西池の整備。パトロールGは観察路草刈り、かまど造り。果樹Gはブルーベリー収穫、倒れた桜の木の植え直し。

7月14日(金) 5名+近大教授など3名

+学生(3回生)15名。(14:00~17:00)

西池への田貝育成木枠の設置のために近大生たちが来訪。この機会に里山研修の一つとして見学依頼がありならやまを案内。

7月20日(木) 晴 75名+3名(近大生)

朝から22日のイベントの準備を行う。

里山Gは、イベント準備、薪材玉切りなど。ユートピアは、赤松林の間伐と草刈り。エコGは、ナスなどの収穫、草刈りなど。景観Gは、緑陰広場の草刈りなど。花班はアジサイの剪定。ビオ班はタナゴ池周辺草刈り、近大生との定期調査。パトロールGは3コースパトロール、イベント準備。果樹Gはブルーベリー収穫、鹿除けフェンスの設置など。

エコグループ

カレーと日本人



里山の今

青木 芳一

春の感謝祭に、ならやま産のジャガイモとタマネギの入ったカレーは大好評でした。

日本にカレーを伝えたのは横浜が開港した幕末に、カレー発祥の地インドではなくイギリスでした。明治5年にはレシピの本が出ており、カレー粉を使い小麦粉を入れています。

一般的な日本式カレーの具といえば、ジャガイモ、タマネギ、肉（牛、豚、鶏）が定番ですが、明治時代後半に入ってからです。カレーソースと米飯を別々にしていた盛り付けを、米飯の上にかけるようになったのも同時期といわれています。このようにカレーが普及したのは、文明化のために西洋のものを積極的に吸収しようとする国民性からでしょうか。

人間の味覚は同じではありません。ひどく辛いのが好きな人もいれば、少しの辛さも苦手の人もあります。カレーはそのような好みを調節することができます。辛すぎるといった人は、まず米飯とカレーを混ぜて調節します。それでもまだ辛いと思ったら、ジャガイモをスプーンでつぶします。つぶしたジャガイモをカレーに混ぜれば、辛さが軽減されます。カレーに入れるジャガイモは、形が残るメークインが良いといわれています。半世紀以上前、関東から関西に住むようになりました。食堂に入ると隣の人が、カレーを食べる時に生卵を掛けて混ぜていました。初めて見る光景で、びっくりしました。後で味がまろやかになると聞きましたが、辛さの加減が出来るのでしょうか。

戦後になると、学校給食にカレーが全国的に採用されました。昭和44年には、レトルトカレーが発売されました。バラエティー豊かに発展したカレーは、国民食として定着していきま

景観グループ

電動自転車で通う道

羽尻 嵩

2011年に入会してから、ならやまの活動には車を運転して通っていましたが、2年前の4月から電動自転車で通うことにしました。里山への出勤も活動の一貫として見てください。

自宅（生駒市）からベースキャンプまでは急峻な坂道も何カ所ありますが、そんな所でも電動自転車の威力はすごいもので、快適に乗越えて行きます。

8時前に自宅を出て、富雄川を渡り、住宅地を越えると大淵池の横の道に出ます。それから秋篠川沿いの自転車道を通ってからしばらく東に進みます。その後、神功皇后陵の横の道を通過し、近鉄平城駅の横の踏切を越えると一段落です。ここまでは、通勤・通学する人が多い時間帯なので、注意しながら行きます。

その後は、歌姫街道を横切り、水上池の北に広がる畑の中の細い道を抜けて行きます。(ここではバイクに乗った永井さんが追越していかれますが、それ以外では誰にも会いません)。



最後に24号線のガード下をくぐると、ベースキャンプに着きます。到着まで約50分です。

陵墓の多いこの道は、私に奈良の地理の新しい発見をさせてくれましたし、四季折々の自然界の変化を楽しませてくれています。

虫だより



里山の今

花だより

トンボ3種

菊川 年明

夏空に舞い、テリトリーを回る元気なトンボ3種をご紹介します。

*チョウトンボ

黒いように見える翅でゆっくりと舞うように飛びます。黒いように見える翅は濃い青紫色で先端に透明な部分があります。後翅の幅がたいへん広いのも大きな特徴です。飛び方はひらひらとチョウのように飛ぶのでこの名があります。

以前、児童対象のイベントの際に「あれはチョウトンボです」と説明したら、女の子から「チョウですかトンボですか？」という質問が返ってきたことがありました。



*コシアキトンボ

本種も空を舞うトンボです。腹部のつけ根の部分がオスは白色、メスは薄黄色ですので、空にいるトンボを見上げると腰の部分の色が空の色に溶け込み、あたかも隙間があるように見えるところからこの名があります。



*ウチワヤンマ

名前にヤンマが付いていて姿も行動もヤンマによく似ています。サナエトンボという種類のトンボです。名前に付いている「ウチワ」は腹部の末端のユニークな突起を団扇に見立てたものです。



ちなみに、サナエトンボ類は水平にとまりますが、ヤンマ類はぶら下がるようにとまります。

クワ(桑)とジュズダマ(数珠玉)の効能

桜木 晴代

*クワ

6月の活動日は、クワの実の収穫で賑わいました。木を揺すって落ちた実を一つ一つ拾っていたのがいつの間にか、根元にビニールシートを広げ、効率の良い収穫に。採れたクワの実は、生食。そして果樹グループのメンバーが美味しいジャムにして提供してくださいました。

(昨年まで、このような光景を見た覚えがありません。今年は何故?)

クワは蚕の餌として栽培されていました。子ども時代に、道端のクワの実を口の周りを紫色に染めて食べた方も多いのでは。クワは養蚕の他に食用・生薬・木材・製紙など多様に使われています。

生薬としては、皮は緩下・去痰・鎮咳・鎮静等。葉はお茶として、発熱・頭痛・結膜炎など。枝は関節の痛みや四肢のひきつり浮腫などに。他に老化防止にも使われているそうです。

*ジュズダマ

ならやまではジュズダマが毎年1.5ℓのペットボトルに3本から4本の収穫があります。多くはブレスレットにしてイベント時の土産となっています。が、他に使い道はないものかと。

そこで、以前から気になっていたジュズダマの効能について調べてみました。

薬効：#胃潰瘍・十二指腸潰瘍

オオバコ・ドクダミ・ヨモギ・ゲンノショウコ・ハコベにジュズダマ50個位をカナヅチで叩き、殻ごと入れこれを1日分として煎じて3回に分けて温服する。

#イボとり

ジュズダマの煎服はハトムギよりもニキビやイボに効果のあった例があるとのことですが

関心のある方は是非お試しください。

気をもんだ

春の感謝祭・ジャガイモ祭り

エコファーム 吉村 さつき

6月22日(木)雨のため中止、翌日もどうなることかと気になりましたが何とか開催となりました。お買い物係の方は気をもまれたことと思います。

昨年より参加者は少なく60名程でしたが皆さまおいしいと喜んでくださいました。



小山さんの沢山のスパイスを使ったエスニックカレーと池田さんのレギュラーカレーとなりました。

お米も白米と黒米を混ぜたもの、2釜を炊飯しました。とても上手に炊けお焦げもないほどでした。7月のイベントの予行も兼ね、飯盒でも3釜炊飯しましたがこれも上手に炊けました。お米は会員さんが用意してくださったものですので、つややかでおいしいごはんとなりました。

この時期ですので衛生面では細心の注意をします。まな板は持ち帰り消毒をします。サラダは前日にレタス・玉ネギ・キャベツを収穫し家にて洗浄、ご自宅でとれたきゅうりも加え混ぜれば提供できる状態にしてくださいました。

ジャガイモや玉ネギ、ニンニクも手分けして持ち帰り、洗ってすぐに調理できる状態にできました。

お米も当日の朝、家で洗ってきます。ならや

まに水道があればよいのにな、とつくづく思います。

畑の作業も待ってられませんので収穫や販売の用意、植え付け等並行してしなくてはなりません。

みんなで手際よく収穫祭の準備をすることができました。

少し早めのお昼ですが、カレー2種類、ごはん2種類、会員さん手作りの赤大根の甘酢漬け、らっきょう、サラダが特大ボール2杯、デザートは、池田さん手作りのコーヒー寒天、戸田さん差し入れのケーキが並びました。

配膳は自主的に他のグループの方も手伝ってくださいました。

この時が一番楽しい時です。

「おいしそうだね」「たくさん入れて」「どっちも食べたいね」「漬物はなになの」「どうしてつくるの」「お代わりしてね」など話がはずみます。沢山作ったので残ったカレーとご飯はお土産となりました。

これですべて完食、楽しい感謝祭となりました。皆さまの笑顔を見るとエコグループ一同疲れも吹っ飛びます。

道具をお貸しくださった方、それを運搬してくださった方ありがとうございました。



育英グローバル小学校
校庭学習・レポ

小島 武雄

7月3日(月)朝10時30分小学校入口に、自然教室のメンバー8名が集まりました。天気は晴れ、気温30度で、蒸し暑い時間帯ですが、木陰には時折弱い風が吹いていて、校庭観察には問題ありません。冷房の効いた理科室で待機していると、加藤校長が挨拶に来てくれました。今日の学習は1年生21名、2年生18名の39名でスタートします。校庭に全員集合、1、2年生の小さな可愛い子たちが、一斉に挨拶。メンバーの紹介ごとに「…先生よろしくお願ひします！」と大きな声と、思いっきりの拍手。とっても、元気をもらいました。

さて、4班に分かれて、4つのエリアを、10名程度で回っていきます。

- ・①エリア、魔法の葉っぱ(カタバミ)
- ・②エリア、不思議な散歩(ミラーウォーク)
- ・③エリア、文字が書ける葉っぱ
- ・④エリア、知っている草を探そう

①エリアには、大きな梅の木があります。梅の実はまだありませんが、子たちからは、「梅干し、梅ジュース、梅ご飯」の声、カタツムリも見つかりました。

②エリアは、まずコブシの木に向かいます、拳骨のような実がなっているのを観察します、「こんなの見たこと無い!」。不思議な散歩は、用意した手鏡を鼻の下に置いて、鏡を見ながら歩きます。そこには、とても近くに葉っぱと空が見え、いつもと違う世界が現れます、わっと歓声が上がりました。前にいる子の肩に手をお



いて、ゾロゾロ芋虫の様に樹木の間を歩きます、楽しそうに2周。

③エリアは、字が書ける不思議な葉っぱ(クロ

ガネモチ)の話。赤い実のなった写真を見せて。そして、カタバミも見つけました、これは後のお楽しみに。

④知っている草を探そう、事前に縄で2m位



の輪を作っておきました。「さあみんな、この輪の中で知っている草は何?」

「エノコログサ(猫じゃらし)、ドクダミ、さっきのカタバミ、ヤブガラシ、ヨモギ」の声、まだまだ沢山ありました。ドクダミの匂いも嗅ぎます。各ポイントは約5分間ですが、次々に「これ、なーに、こんなあったよ!」。とても時間が足りません。

途中休憩に入ります。涼しい教室で10分休み、水分補給の後、教室へ移動します。

教室メニューは

① 魔法のカタバミで十円玉磨き



机の上に新聞紙を敷いて、カタバミ一掴みと、先生が用意してくれた古い十円玉。カタバミを揉んで液状にして一斉に磨きます。10分ほど、あら不思議、あの十円玉がキラキラに、さらに力が入ります。ヤッター!! と。ピカピカの十円玉を持つ手を高く上げました。

② 字が書ける不思議な葉っぱ

用意したクロガネモチとタラヨウの葉、手作りの小枝エンピツで、裏返した葉に好きな文字や、絵を描いていきます。ふっくらとした小さな手に、小枝の鉛筆がよく似合います。花や、昆虫などを色々描いていきます。

最後に使った小枝の鉛筆に、紐と金具を取り付けて、おみやげのアクセサリーを作ります。みんな、とても楽しそう!ピカピカの十円玉と、文字書きの葉っぱ、鉛筆アクセサリーを大事にしまっただけです。一斉の拍手。大きな声で「先生ありがとう、また来てね」。

元気一杯で、はじけるような可愛らしい子供たちでした。

仲間入りしました

ノヴァク ヤロスワフ

私はポーランド人です。今年の3月中旬、7年振りに日本へ帰国しました。合計すると18年過ごした福岡から離れ、少しでも夏の暑さが穏やかな奈良に住むことにしました。帰国が春分を迎えた時期に重なり、桜など花が咲き乱れ、緑が茂る雄大な自然が迎えてくれました。

しばらくして私たちは散歩のできる森を探していたところ、「ならやまプロジェクト」の看板を見つけました。最近二人で話題にのぼるのは、田舎で過ごした頃の土いじりや魚釣りなど自然の中での暮らしだったので、興味を持ち誘われるように竹藪の中に踏み入れました。そこには里山の風景が広がり魅了されました。そのまま歩くと隠しカメラの警告があり、興味を残しながらも引き返すことにしました。約1週間後再び踏み入ると今度は大勢の人が田畑を耕し梅などの収穫をしているところでした。さらに見たことのない赤黒い実のなる木が気になり「その実はなんですか」と尋ねると、私たちに気づいた方が、桑の木で実は食べられるので勧められ口に入れると熟してとても美味しかったです。

皆さんから気軽に話しかけていただき、その自然体の姿やこの地で活動をされている様子にぜひグループに参加したいと申し出ました。その場で会長の千載さんに紹介していただき入会しました。山の中を案内していただき、翌週からの活動初日が収穫祭で、カレーとサラダそしてコーヒーゼリーまで出て美味しく、私は日本のおもてなしを経験したようで有り難くいただきました。

今までの暮らしが、仕事や趣味などに時間をとられ自然から遠ざかっていた事に気づきました。この会の人々の自然と向き合う姿勢に影響され、これからは学びながら体験しようと思っています。ただし暑さに弱いので注意しながら楽しんでやりたいと思います。



後列右から二人目と三人目がノヴァク夫妻

ノヴァク 由美子

ここ数年夫と共に暮らしたドイツでは、身近に森や湖が広がりキノコを採ったり鴨や白鳥が泳いでいる様子を眺めたり、日本の自然と人々に想いを馳せながら過ごしていました。日本での慌しい生活から離れた静かな田舎暮らしで、牛や羊などの牧場そして養蜂箱を見ながら日本で暮らすなら田舎が良いなと思っていました。

数ヶ月早めに日本に戻り、実家のある福岡から初めて転居したのが奈良です。母の里が京都で、夏休みの良い思い出と程よい距離の奈良で神社仏閣そして仏像を見て回り、もう一度日本について知ろうと思いました。

奈良の気候は底冷えのする冬の寒さ以外は穏やかで過ごし易いです。日本の中心に位置する関西はどこに行くにも便利で、歴史をたどって楽しんでいます。

縁あって入会した「奈良・人と自然の会」での活動は、まさに子どもの頃暮らしていた身近な田舎の風景で、作業に参加している人々の様子は、そこで接したご近所の方々との楽しい話や学びが思い出されます。最初からあった田舎の風景が、実に長い歴史の中で作り上げられた貴重な景観であった事にあらためて気づきました。「明るく・楽しく・無理をせず あなたも私も・力を合わせて」作業に参加したいと思います。





私の少年時代

氏本 仁志

今年の1月で60歳になり定年退職！

なんと無職になってしまった。どうする氏本。

△

海のない奈良県の山奥で、一人の産婆さんが同じ日に私と近所（直線距離で2km先）の同級生をこの世に取り上げてくれました。

現在のように電話もない山の中でどのように連絡を取ったのか？ 道路もなく、当然のことだが車もない。狭い山道をテクテク歩き産婆さんを迎えに行き、同じ道を戻ると先ずは私が元気な産声を上げ、産婆さん、休むことなく山道をテクテク、同級生が元気な産声を上げました。

父ちゃん母ちゃん産婆さんありがとう。

△

すり鉢状の地形に10軒の家が適度な間隔で建ち並ぶ。（さみしい事だが現在は6軒）

みんなの家から全体が見えるから、どこで遊んでも安心、悪さをしたら誰かが怒鳴りつける。転んでケガをしてもヨモギの葉をもんで貼り付けたら手当OK！

小学校に入学するまでは、毎日どこかの家へ上がり込んで飯を食い遊んでいたように思う。

保育所も幼稚園も無かったので、いきなり小学校一年生だ。

先生は一人、同級生は5人で2年生(4人?)と同じひとつの教室で授業開始です。

何の不自由もなく楽しく授業を受けていたように思う。

校則で決まってる小遣いは30円。店がないから国道沿いのお店のおちゃんが車で食料やお菓子を週に2回？ 売りに来てくれる。このころには道路（地道）が出来て、でこぼこ道だが車や単車も走ることが可能になった。

集落の入口に来るとクラクションを鳴らしまくる！ それを合図に皆が買い物かごをもっ

て集合だ。

一年生ながらめちゃくちゃ怖い先生にビビリ校則を破ることはなかった。30円でチロルチョコを買ってワイワイ言いながら子供たちは楽しく食べる。

秋の運動会は大変だ。山の斜面にあるため学校の運動場は狭いが、関係ない。年に一度の運動会、親も子供みたいに大はしゃぎ。トラックの曲線が小さいので転倒者続出、それがまた面白い（笑いの渦）。ちなみに私は足が遅いのでこける心配はなかった。

給食なんかはあるわけない。家族で輪になり弁当を頼張る。素晴らしい経験をさせてもらったものだ。

△

五年生ぐらいになると三つ上の兄貴を真似て魚とりを始める。まずはモリ（ヤス）を使って鮎やアマゴを探す。見つけたら水面を叩き魚を岩場に追い込みすぐさまブスリ。逃げないように手で抑え込み編み籠に放り込む。ある程度の量を収穫したら、傷まないように内臓を取り出しきれいに水洗いする。集中しすぎて川から出ない為、唇が紫色になるがやめられない。

△

次は鰻だ。岩場と砂の隙間にある鰻の家を探し、穴釣り用の針にミミズまたは鮎の内臓を取りつけて細い竹の先に設置して準備完了。穴の付近をチョロチョロさせると「こんにちは」頭を出して口をパクパク。ダメや息が続かん。一度顔を上げおもいきり空気を吸い込み再度潜り、口元に餌を近づけるとパクリ！ やった！ しかし食いつきが浅いか我慢比べが始まる。あかん息が……。鰻が穴の奥へ「今や！」仕掛けを引っ張るとニョロリニョロリと出てきた。

夜は鰻の蒲焼きと鮎の塩焼き、ご馳走さまでした。

清流のような川だからすごくきれいで飲めそうだが非常に水が冷たい。

今の私では心臓麻痺を起こすかも……。

述 懐

谷川 雅邦

人は、ひよんな事で、右脳が刺激されるものだ。目が覚めて、新しい朝を迎える度に見渡す辺りの景色の変化に気づき、新鮮な自然の美しさに魅了されてしまう事がある。

足早に過ぎゆく時の流れの中で、ふと、我に返ると、新緑の息吹と季節に香る美しい花たちに囲まれ気がつけば、いつからか自然の虜になっていく自分がそこにいた。

それというのも、家族で奈良に移住した事が、そのきっかけとなったといっても過言ではないだろう。思い起こせば、私が、奈良・人と自然の会に出会ったのは、何と17年前の出来事だったとは、一部の人を除き、殆ど、当会々員の誰しもが知るよしもないだろう。

他方、紆余曲折の人生を歩む中で、偶然に出会った事も、これもまた、事実である。そして、また自然に寄り添い、その優しさに触れたいと常日頃、小さな夢を心に抱いていた時期でもあった。しかし、当時は、私も、別の地域活動で多忙を極め、イベント以外には、ほぼ、当会への参画は不可能であった。

最近になって、幸か不幸か、コロナ禍のため、地域活動が半減されたのを機会に、余暇の時間を利用して、思い切って、果樹グループの一年生として参加する事にした。先頃は、桑の実やグミの実を収穫したが、そろそろ、梅の実の出



来具合も気になるところだが、今のところ、順調に生育しており、6月中頃から7月にかけて、立派な丸い大きな実を沢山つけるだろうと今から期待している。それが過ぎると、夏の終わり頃には橘、ブルーベリーなどが登場してくる。秋になれば、キウイ、栗やレモンなどが目白押しに続き、まさに華やかなイベント模様である。

果実に良い環境を維持、保護するため、並行して、鹿や鳥など小動物対策も怠りなく万全を期したい。季節の移り変わりに合わせて、種々の果樹が先を競って、その実をつけ出番を待っているのが嬉しい。折に触れ、香しい匂いがあたりを拡がって、ここには、働く者を楽しませてくれる空間がある。そして明るく、楽しい仲間が集う憩いの場でもある。努力して実を結ぶ収穫の喜びは、何事にも代え難い。暇をみつけて、是非、果樹スペースにコーヒーを飲み立ち寄りてみては如何かな？



何気ない、佇まいの中で、人と自然が融合し、一体化したならやまの素晴らしさに、この上ない充実感を感じているのは、ならやまで活動する仲間たちや、此処を訪れる人たちすべてが共有するものであろう。

これからも少しずつ、世のため、人のため、自分が出来る事を自然と共に歩み、自然を友として人生をより豊かなものにして、身体と時間の許す限り前を向いて、邁進して行きたいと思っている。

私見 スズメバチ考

清原 正彦

野山に入った場合に注意すべき動物には、マムシ以外にスズメバチの存在が考えられます。

奈良県内で見られるスズメバチは、オオスズメバチ、キイロスズメバチ、コガタスズメバチ、ヒメスズメバチ、モンスズメバチのほか計 10 種類もいるとのこと。

(奈良県野生生物目録 2017 年刊から)

スズメバチの一生は、前年秋に交尾を終えて越冬した女王バチが単独で巣作りをはじめ、娘である働きバチを育て上げ、一定数に増えると産卵に専念。巣をどんどん大きくし、秋にオスバチと新女王バチが空中で交尾して越冬を繰り返すのだそうです。



キイロスズメバチ

スズメバチの毒は強烈で刺されて死に至るケースもあることから、見つけ次第巣ごと駆除されることが多いのですが、スズメバチ自体の数を減らす目的で「ハチトラップ」を設置することがあります。

新女王バチが活動を始める4月から6月に、ペットボトルに仕込んだジュースでハチを誘い込み溺死させる仕組みです。女王バチさえ殺せばハチが増えないという訳です。

私も九州に居た時に数年にわたって「ハチトラップ」を設置したことがあります。結果は、

オオスズメバチは大幅に減少した半面、キイロスズメバチの数が増えてしまいました。

原因は、オオスズメバチが子ども達の餌にするためキイロスズメバチの巣を頻繁に襲うのですが、キイロスズメバチにとっての天敵のオオスズメバチが減少したからと考えられました。



オオスズメバチ

キイロスズメバチはオオスズメバチに襲撃されることを恐れてか、攻撃性がとても高いといわれています。

通常、スズメバチの巣に近づくと、ハチはクチバシをカチカチと鳴らしたり、「それ以上近づくな」と周りを警戒飛行しますが、キイロスズメバチは、巣に近づいただけで攻撃を仕掛けることが多いそうです。なので、人間にとってはオオスズメバチよりキイロスズメバチの方が厄介かもしれません。

そんなわけで、ハチトラップの設置はやめました。人間が自然界に介入して人間に都合よく数を調整しようと考えること自体が不遜なのかもしれません。

因みに、九州では、珍味の蜂の子を求めて「ハチ追い」をする人をよく見かけましたが、奈良の方はなさらないのでしょうか。

※ 本文以外で奈良にいるのは、チャイロ・クロ・ツヤクロ・シダクロ・キオビクロスズメバチだそうです。

特集エッセイ（夏の思い出）

皆さま、今年の夏休みはどうお過ごしでしょうか？3年も続いていた夏休み中の行動自粛が緩和され、色々な行事が復活しています。

ならやまの夏休みはとくに行事はないのですが、盆休みはあります。会報誌の記事、行事報告も少ないので、ここで皆さまの原稿編集をさせていただいている編集委員の紹介も兼ねて「夏休みの思い出（とくに子ども時代）」を思い出して記事を書いてみました。

子どものころは思い切り遊んだ夏休み。今は熱中症に気をつけながら穏やかに過ごす夏休み。

皆さまも、一息ついた時に思い出してみたいかがでしょうか。もしよろしければ、「運動会の頃」「紅葉の頃」「冬休みの頃」など思い出をきかせていただく投稿をお待ちしています。

夏休み その1

年少の頃の夏は目の前を悠然と流れる吉野川(紀ノ川の上流)での思い出がいっぱいです。昼はほぼ毎日泳ぎに。ただ運動神経が鈍い私は年1回は深みにはまったり、流されかけて助けられるようなことを繰り返していたようです。それにもめげず川に行き、その後井戸水で冷やしたスイカをほおばっていました。

夜はほぼ夏休みの期間中鵜飼が行われていました。一度鵜飼見学の船に乗せてもらったことがあります。かがり火の下、鵜匠が紐を使って数羽の鵜を巧みに操る様を今でもおぼえています。その他、灯籠流し、花火大会や盆踊りと豊かな行事にあふれていました。

ところが、小学校中学年のころ、学校にプールができ、それとともに吉野川での水泳禁止。灯籠流しも、流した灯籠がゴミになるからと実際に流すことが禁止に。中学生になった頃、気がついたら鵜飼も盆踊りも無く、寂しい夏になっていきました。

夏休み その2

夏休みといえば、まず水泳。お昼ご飯を食べてから畑に寄ってスイカやマッカウリをもらい、目の前の川に行った。持って行ったスイカを冷やし、川遊びに明け暮れた。泳ぐより潜水が得意で、子どもだけで夕方まで遊んだ。ずいぶんと危ない目にもあったが、何とか生き延びた。

梅雨の頃、大雨が降って水田が増水し、小さな蛇が出てきた。それで、沢山集めて近くのおいなりさんに放しておいた。その夏、おいなりさんで朝のラジオ体操をしていたら、マムシが沢山見つけた。噛まれた人はいなかったが、マムシが見つかった時、体操はそっちのけでマムシ退治になった。知らんぷりをしたのは言うまでも無い。

熱中症（昔は日射病か）にもならず、元気に走り回っていた。昔は今ほど暑くなかったのか。熱中症のニュースを見る度にそう思う。

夏休み その3

長〜い夏休み……。まず朝一に近くのお寺へカードをぶら下げて6時半のラジオ体操に行く。体操をしてハンコをもらって、しばらくかくれんぼなどして遊んで帰ると、9時頃か？「アサエ？」「アサイ？」と言っていたご飯を食べる。（二度目の朝食みたいなもの、結局一日4食！）それから宿題でもしたのかな〜……。

昼食後は唇が紫色になるほど冷たい川で遊ぶ。ヤスで石の下にいる魚を突いたり、ミミズで魚釣りをしたり。

何年生頃からか、夕方は薪でご飯を炊いたり、お風呂を沸かしたり、庭をきれいに掃くのも子どもの仕事だった。塾なんかもちろん無いし、長い一日をどう過ごしていたのか？

男の子も女の子も真っ黒になって2学期になる。





Gallery ならやま



興福寺 国宝本造十二神将立像 毘羯羅(ビカラ)大將像

ペン画 毘羯羅(ビカラ)大將軍 境 寛



陶芸 お父ちゃん、鳥! 小島 武雄



スケッチ ユキウサギ 戸田 博子



スケッチ ハナショウブ 梨本 哲

掲載作品はホームページではカラーでご覧いただけます。皆さまからの作品のご応募をお待ちしております。絵画・陶芸・写真・墨絵・手芸・パッチワーク・切り絵・自然工作など。

2023年7月度 幹事会報告

開催日：6月27日

I. はじめに

- ・6/23 感謝祭のお礼

II. 会計・総務部より

- ・会員動向：入会2名 退会2名 会員数148名
- ・会計：会費納入状況 収支報告あり

III. 活動・行事関係

- ・7/22 夏だ！休みだ！里山で遊ぼう！イベントの実施要領を確認。昆虫採集ができるよう草刈りエリアを注意する。
- ・9/23 ジュニア自然大学校こどもゆめくらぶの対応確認 予備日9/30
- ・佐保川小学校学習支援 8/末～9/初の予定
- *ならやまプロジェクト関係
- ・ならやま活動 夏時間の実施 9:00～12:30
- ・田畑周辺の雑草がひどい→エコG状況確認し必要なら応援体制を要請してほしい
- ・6/30 近大生15名、西池の田貝育成環境整備のため木枠設置等に来訪
- ・7/1 セタ用笹竹の採取依頼あり、手配確認済
- ・里山整備図・観察路地図 BCにて希望者に配布する
- ・里山林に隣近の子どもたちが入っている、危険注意(マムシ・マダニ)看板の設置状況確認

IV. 企画、助成金事業案件

- ・助成金報告書作成中、各担当へ作業写真依頼
- ・来年度以降必要な物があれば申し出を

V. 広報関係

- ・ネイチャーなら8月号編成内容について説明

VI. 報告・連絡事項、その他

- ・月例研修会：8/1 伊吹山・醒井参加者募集
- ・自然教室：7/3 育英グローバル小学校校庭学習

VII. その他

- ・賄い当番に対する認識が希薄
朝礼時に担当者を確認する

以上



教育(今日行く)と教養(今日用)が過ぎ草の庭。投句しようと推敲中の川柳です。予定表が埋まってなかったら不安なお出かけの予定が埋まっていきます。

ウン十年間、仕事と子育てに一杯一杯で明日になったら今日より楽になるって呪文を唱えながら過ごしていたあの頃。大好きな仕事と子供たちに囲まれ夢中で、主人に助けられながら生きていたあの頃。

そんな時間がひと段落し、自分の時間が帰ってきました。自分で予定を組み、したいこと、行きたい所を自分で決められる、充実した「わ・た・し」の時間。指の間からサラサラと音を立てて零れ落ちていく様に過ぎていく貴重な日々。この会に参加させていただいたお陰で私の日々が彩りを増してきました。人生の帰り道にはずっと昔から入っているけれど、これから見る景色を楽しみながら今日を生きていきたいと考えています。



9月ならやま活動&行事予告

- *ならやま活動 9/7 協働活動日
- *ジュニア自然大学イベントこどもゆめくらぶ 9/23(土) 予備日9/30(土)

発行：奈良・人と自然の会

URL : <http://www.naranature.com>

編集代表 Mail: editor@naranature.com

編集委員：青木(幸)・青木(芳)・尾崎

千載・田中(善)・戸田・豊田

表紙写真：久しぶりに、ならやま西池に生息する水生生物の調査をしています。